

令和3年度市民提案型市民協働事業実施報告書 (狛江市乳がん患者会との市民協働事業)

1. 事業概要

乳がんは40～50歳代をピークに発症や死亡が増加しており、子育てや介護、仕事と女性として一番忙しい時期にかかりやすい病気である。実際に乳がんを発症した方やパートナーの体験談、乳がんの最新知識について学ぶことにより、乳がん検診の啓発を行う。

2. 主催

狛江市

狛江市乳がん患者会

3. 事業形態

狛江市と狛江市乳がん患者会との市民協働事業

4. 事業内容

乳がん講演会『乳がんを診断されたとき』の実施

【実施日】

令和3年10月30日(土) 午前10時から正午まで

【会場】

狛江市防災センター4階

【内容】

第一部：実際に乳がんを発症した方・パートナーの体験談

第二部：乳がんの最新知識について

【講師】

第一部：三上 みく氏(狛江市乳がん患者会会員、ひだまりライフ代表)、慶樹氏夫婦

第二部：池田 紫氏(昭和医大乳腺外科医、むらさき乳腺クリニック五反田院長)

5. 事業成果

乳がんは女性に一番多いがんで、早期発見が重要である。世の中に多くの情報があるが、実際に発症した方の体験談や現場で治療している医師が話すことにより、実際の感情や具体的な治療への進み方等普段では聞くことができない生の声を聞くことにより、乳がん検

診の重要性・大切さを伝えることができた。第一部の体験談では、がんと告げられた時の本人、パートナーそれぞれの気持ちや手術後の生活についての話をした。第二部の医師の話では、乳がんの最新知識や医師としてどのように寄り添っていくか等の話をした。

また、今回の講演会は来場のみならず、インターネット視聴も可能なハイブリット形式を採用し、市内外から多くの来場、視聴があり来場 41 名、WEB 41 名、合計 82 名の参加があり盛況な講演会であった。

【写真】

